

● 中国

松本憲治

地方においては、文化芸術振興基本法、第2条6項の文言「……地域の人々により主体的に……」、という視野と同時に、「頂点はあくまで高く、裾野はあくまで広く」という視野の合意醸成がまたれる。つまり、アカデミック（教育・研究・育成）なコンサート、「名だたるプロの名演奏家」の商業公演（買い公演）と合わせて、市民のための文化芸術、という趣旨での様々なコンサートが望まれるが、趣旨合意と手法が課題か。

広島。見真学園広島音楽高等学校が9月に第66回定期演奏会を。今年度で閉校予定の、これは「最後の」定期演奏会。在校生を中心に、卒業生、同じ系列（財団法人見真学園）の崇徳学園ギタークラブ、そして広島交響楽団などが協演。指揮は東京シフォニエッタの音楽監督の板倉康明、ベートーヴェン・ピアノ協奏曲第1番やボロディンの「鞆韃人の踊り」など。広島音楽高等学校は1949年（昭和24年）に開校され、近年でもPfの萩原麻未や、Sop.の野々村彩乃などを輩出し、広島を中心に中国地方では長く、音楽文化の発信、普及、深化に貢献してきた。3年前、志望者数の減少を受けた経営判断から「募集停止」が発表され、議論を呼んだが、これを「地域の音楽文化の衰退」とみるよりは、「地域の文化芸術、変化する社会に対応する次のステージへ向けての成熟過程」としたいところ。

ピースアーチ・ヒロシマ・プロジェクトが大きな広がりを見せはじめています。これは平成23年度から始まった広島県、および実行委員会主催のコンサートプロジェクト。6月初めから8月下旬までの3ヶ月間に都合19公演。

主催コンサートとしては大きく3つ。まず7月23日（土）「クラシックコンサート」として、広島交響楽団とポーランドのシンフォニア・ヴァルソヴィアがショパンのピアノ協奏曲第1番とベートーヴェンの交響曲第9番を。指揮は秋山和慶、ピアノは小林愛実、独唱はニコール・カベル、藤村実穂子、クリスティアン・エルスナー、アダム・パルカ、合唱は東京オペラシンガーズ。2つ目、8月20日（土）「地元アーティスト・コンサート」として、ポップス、現代音楽、そして邦楽。3つ目は8月22日（月）「レクイエムコンサート」として、原爆ドーム前で被爆ピアノを萩原麻未が演奏。萩原麻未はその他、広島交響楽団と「平和の夕べ」で協演。曲はシューマンのピアノ協奏曲。

関連コンサートとして、6月3日（金）秋山和慶指揮、広島交響楽団のディスカバリー・シリーズ「Gift」を初めとして、8月末までに、広島市を中心に、県内各地で在住の演奏家や市民参加型のコンサートが16公演。また、このプロジェクトには顕彰制度があり、5月にマルタ・アルゲリッチが「ひろしま・ピース・プライズ（ひろしま音楽平和賞）」を受賞した。

「平和コンサート」系は、広島という土地柄もあり以前からこの時期多かったが、この時期の様々なコンサートに「ピースアーチ」というゆるやかな統一感あるイメージをもたせた意義は大きく、さらなる発展が期待される。

平和と音楽関連では、NPO法人「音楽は平和を運ぶ」の活動がめざましい。（株）カルビーの元会長の肝いりで設立されたが、主催コンサートの他、広島以外の他地域への助成も活発。

広島交響楽団。音楽監督・常任指揮者である秋山和慶の任期最後のシーズン。ちなみに来年度からは下野竜也が音楽監督。定期演奏会は第356回～365回の10公演。主だった指揮者は、秋山和慶、高関健、アンドリス・ボーガ、ネーメ・ヤルヴィ、フォルクハルト・シュトイデ、下野竜也、川瀬賢太郎、広上淳一など。また、恒例の地域定期公演として、2月福山市リーデンドローズ、3月島根県益田市グラントワ、4月廿日市市さくらびあ、で。その他主催だけでも、名曲シリーズやディスクアバリー・シリーズなど。

大植英次プロデュース、威風堂タクラシックin Hiroshima委員会主催「威風堂タクラシックin Hiroshima」は、今年は12月24日～25日の2日間で一般公募のオーケストラや室内楽など5公演。

アステールプラザで継続されている、ひろしまオペラルネットワーク。オペラ公演は11月にプッチーニ「修道女アンジェリカ」と「ジャンニスキッキ」。指揮・佐藤正浩、演出・栗園淳。管弦楽・広島交響楽団。在広のオペラ団体公演、広島シティーオペラ推進委員会が3月に「ドン・ジョヴァンニ」。指揮・奥村哲也、演出・飯塚励生。野薔薇座が「わたしの貴婦人（原作：マイ・フェア・レディ）」など。

細川俊夫による現代音楽のHIROSHIMA HAPPY NEW EARシリーズでは、マリアンナ・シリニャンによる「煌めきのピアノソロ」。バツハ、細川俊夫、バルク、ショパンのピアノ曲。

昨年オープンした三次市の市民ホール「きりり」は、みよしKIRIRI児童合唱団を編成し、昨年オープンの東広島芸術文化ホール「くらら」は、東広島くららジュニアオーケストラを編成している。

恒例の中国放送主催の「第九ひろしま」は32回を迎え、今年は過去最高の公募合唱団1757人。いわゆる年末第九の公演がいささか減少するなか、この「市民第九」は盛り上がりを持続している。指揮は山下一史。

（以下、紙数の都合で中国地方の他の4つの県の興味をひいたコンサート活動を短く報告する。）

岡山。岡山フィルの公演は、第49、50回の定期が2回。指揮はハンス・イェルクシェレンベルガー。岡山シンフォニーホールが会館25周年記念コンサートを。岡山フィル、岡山交響楽団、岡山ジュニアオーケの響演。

山口。秋吉台国際芸術村。第5回秋吉台音楽コンクールが4月末～5月初頭に、コントラバス部門は1位に中村元優、ホルン部門1位に根元めぐみ。シンフォニア岩国では公募合唱団で第九を。指揮は現田茂夫。

島根。太田市が、来年度オペラ「石見銀山」の制作を発表。島根県芸術文化センター・グラントワは、所属のグラントワ弦楽合奏団が第6回目の定期公演を。

鳥取では、鳥取市交響楽団が第30回記念「県民による第九」を。指揮は高野秀峰。鳥取オペラ協会は、倉吉市で、日韓親善オペラ公演として5月に「アマールと夜の訪問者」、「バステリアンとバステイエンヌ」。これらは演出つきの演奏会形式で。